



テレジンを語る会 いらき おたより

# モティール

No.04 2012.1発行

※モティール・・・チェコ語で蝶

\*\*\*\*\*

## 「テレジン収容所の小さな画家たち展」

2011年10月18日～23日 於：つくば美術館、無事に終了しました。



**展**覧会を開こう！小さな声が、だんだん広がり・・・そして百人を超える大きな力となって、テレジンの小さな子どもたちの平和への願いを、二千人を超える人々に届けることが出来ました。

たくさんの方のご支援のお蔭で、あたたかい手づくり展覧会を開催することが出来ました。準備期間の一年間、そして本番の一週間、黄色いチラシを持って蝶々のように飛び回った記憶は展覧会の静かな興奮と共に引き継がれることでしょう。本当にありがとうございました。

展覧会初日には、20年前テレジンの子ども達の展覧会を日本で最初に企画され、その後もずっと活動を続けられている野村路子さんにおいでいただき、ギャラリートークを行ないました。90分間一つひとつの

パネルの前で貴重なお話をいただきました。その後、常総生協さんとの懇談会でも語り継ぐことの大切さ、子どもを守るための大人の努力など、東北の大震災、原発の問題とも関連して話し合われました。

6日間の展覧会期間中、途切れることなく来場者の波が続きました。入り口アプローチのパネル20枚は、子どもの絵や詩のほかに解説も丁寧にあったので、皆さんじっくり見てくださり、いつも渋滞していました。展示室では熱心に1時間以上かけて鑑賞していかれる方が多くいました。子どもや友人を誘って再び来てくださる方も。外国の方も多く訪れてくださり、二日目からは英文資料も用意しました。また、5月のコルチャック先生上映会で学んだことを参考に「こどもの権利条約」の抜粋と資料を掲示しました。

テレジンに收容されていた1万5千人の子どものうち、生き残ったのはたった100人だけという…。重苦しい気持ちを抱えて帰られる方が多くいます。出口に置いてあるシルクの花束がやさしいフリードル先生のようにホッと心を癒してくれると、言葉を掛けてくださいました。

数百枚のアンケート用紙には、「こんな素晴らしい絵を遺したテレジンの子どもたちのことを歴史の教訓として忘れてはならない後世に伝えなければいけない。これからの生き方の指針としたい。」など貴重な意見や感想が書かれていました。未来に託す提言の数々です。集計し報告文集としてまとめることにしました。次の世代にも、この活動の記録と意義を伝えたいと思います。

「テレジン収容所の小さな画家たち展」  
実行委員会

\*\*\*\*\*

# アンケートから

---

・このような事が再発しないように展示会を多くの場所でする必要があると思います。(男60代以上)

・子どもたちの絵はどれも楽しかった頃を思い出して描かれたものでしょう。でもその絵を描いた子どもたちの思い、未来はなく、未来をつくっていくこともできない。そのような状況の中であることを思いつつ、子どもたちの絵をみると、楽しい様子が描かれていて、とても悲しくつらく感じてしまいます。二度とこのような思いを子どもたちにさせる世界を作ってはいけません！(女50代)

・想像できない生活だと思いつつ、明るいやさしい絵が多いのに感動しました。多くの人に見てもらいたいと思いました。(女60代以上)

・人間がこれ程悲しい事が出来るものかと思えます。でも、平和な今も信じられない事件が多々起こっています。一人一人が時々の動きをしっかりと見極め、平和からずれないように行動することが必要と思えます。子供のすばらしい未来を閉じさせた行為、ゆるせない。(女60代以上)

・美術を学んでいる学生です。極限の状況でも描くこと、表現することをやめなかった、だからこそやめられなかった人々。強くしなやかな心そのものです。もし自分や家族が---と考えると、胸が割れるような思いです。いつも、いつでも、どこでも黙祷。(女20代)

・収容所で辛い思いを経験した子供達の率直な思い、感情が反映された絵の数々を見て、人の“表現する”ことの大切さを感じました。展示で当時の収容所外の実際どのような様子であったかという資料写真がもう少し用意して頂けると、子供達の知らない現実との比較の参考になると思います。(女20代)

・悲劇を繰り返さないためにも、若い世代が過去に起きた事実について想起する、考えるきっかけとなるこのような展示会は大きな意義がある。今後もぜひ続け

て行って欲しい。(男20代)

・何も悪いことをしていない子どもがどうしてこんな目にあわなければならないのか。今の原発問題も、子どもは何もしていない。この世に生まれてきただけなのに。私達大人がなんとかしなくてはいけない。昔のいろいろな悲しいできごとから学び、私達大人が子どもを守らなくてはいけない。(女40代)

・歴史の一部としてアウシュビッツについては知っていました。知識とは異なる現実感があって、考えの浅さにきづかされました。10歳～14,5歳の子供たちの絵を見て、もっと小さい子供達はどうなったのか、それも気になりました。人間の狂気とそれを止めない周囲の人間、どうすれば良いのか、できるのか。(女60代以上)

・重いテーマだが見なければならぬ物が見れた。今日を大切に生きなければいけないと思った。(男40代)

・このような悲劇を招いたのは少数の指導者だけが原因ではなく、それを止められなかった民衆の存在もあると思いました。今、他者のことを考えられているでしょうか。(女10代)

・為政者の愚かな行為や不作為により、個人としてはどうにも抗し難い大きな事(不可抗力)に巻き込まれ、その生命を、人生を断絶された個人の物語はいつも痛ましい。戦争であれ、天災であれ、人災であれ。「テレビジョン」の如き悲惨な歴史的事実は、理屈ぬきで、いつでも、どこでも、いつまでも、愚直に伝承続けていくしかない。現代に生きる我々は、その歴史的悲劇の直接の「下手人」ではないが、その伝承の努力なしでは、後世の「間接的下手人」のそしりを免れない。「会」のご健闘を!! (男60代以上)

・感動しました。福島も子供達に、今私たちは同じことをしているのでは(社会的不公平を押し付けている)と思います。今、私たちにできることをしていかなければ、」と思いました。(女60代以上)

## 水俣と福島、「いのち」を大事にする社会に向かって

2011年11月12日~13日、「水俣・白河展」と、同展を記念して開かれる「講演会」に参加するため、水俣フォーラムが企画した「水俣・白河展への旅」を訪れた。

### 11月12日「水俣・白河展」

白河市民による「水俣・白河展を開く会」主催、水俣病の実態と歴史を紹介する展示。福島原発事故からの復興を目指して、水俣病で得た教訓を生かしたい、という思いからの開催と聞く。

展示は、水俣・不知火海の豊かで、のどかな自然風景から始まり、一転して不吉の前兆として、発作を起こし死にいたるネコの姿が、次いで患者第1号となった女性の写真へと続く。水俣病の症状、それが不知火海全域に拡大していった様子。その中で水俣病の原因物質が特定され、しかし、それを流した企業であるチッソは原因物質の流出を止める意思がなかったこと、国もチッソを守り、熊本県はデータを死蔵したこと、さらにチッソが被災漁民に「見舞金」を支払い、そこにはこれ以上の請求はしないという念書が入っていたことが明らかにされる。

展示の最後は、水俣病死者群像。「記憶と祈り」と題し、死者総数1200人以上のうち約500人の遺影を集めている。展示を

前に、多くの人は無力感に襲われる。企業の、県や市といった地方自治体の、そして国の対応の酷さ、にもかかわらず患者を救援することも、新たな患者の発生を抑えることもできず認めってしまったことへの悔み、自責の重みに打ちひしがれるからである。

そして、福島でもほとんど同じことが起こっていることに愕然とする。福島の人々は水俣病患者と同じ苦しみの道を辿っている。「いのち」よりも企業の利益を、経済発展を重視するこの国のあり方。ここで「水俣」と「福島」が同じ問題で結び付くものとして意識される。そこを何とか変えないと、「いのち」を守ることとはできない。その思いを強くして、展示会場を後にした。

### 11月13日講演「水俣病から福島原発事故を考える」

午前中に「アウシュヴィッツ平和博物館」を訪問し、午後から「水俣病から福島原発事故を考える」と題する講演会に参加。主催者の予想を超え、立ち見を含めて約700人の参加があった。司会者は竹下景子さん。演者は映画監督の森達也さん、水俣病患

者家族の緒方正人さん、ルポライターの鎌田慧さんの3人。

森さんはゲイの不作為について触れ、ゲイを変えようには私たちが変わらなければならないと主張。緒方さんは「水俣病も原発事故も大量生産・大量消費という国策によって引き起こされたのだが、それで私たちは本当に豊かになったのか」と問いかけ、鎌田さんは原発について「地域社会を荒廃させ、地域の人々を「金」で縛って骨抜きにし、科学者の良心を打ち壊した」と批判、原発に依存してきた社会を変えるべく、いのちの限り運動していきたいと発言した。

それぞれの視点からのお話であったが、参加者は、今、この日本をどう変えていくのか、一人ひとりが自分のこととして考え、行動しようという小さな決意を胸に抱えて講演会を後にしたのではないと思う。

長田満江





テレジンを語る会いばらき おたより

# モティール

<http://teresien-ibaraki.jimdo.com/>

「テレジン収容所の小さな画家たち展」  
2011年10月18日～23日 つくば美術館

## 展覧会の様子



初日の野村路子さんのギャラリートーク



いろいろな人がいますね…



自分の名前は漢字でかけるよ～



手描きの看板が大人気



高校生のボランティア大活躍!

展覧会期間中の入場者数

合計2563人

・10月18日(火) 391人

・10月19日(水) 286人

・10月20日(木) 266人

・10月21日(金) 250人

・10月22日(土) 629人

・10月23日(日) 741人

## 次回のイベント案内

\*\*\*\*\*

### 「テレジン収容所の小さな画家たち展」 報告会

2012年2月25日(土)

場所:つくば市民活動センター

時間:13時半から15時半

参加無料

つくば美術館で開催した「テレジン収容所の小さな画家たち展」10月18日～23日、その感動の一週間をアンケートや係った人たちの感想、新聞記事、会計報告等をまとめ報告書を作成しました。その報告会です、どうぞご参加下さい。

### 速報! 野村路子 出版記念講演会

2012年4月7日(土)

午後アルスホール

詳細未定



「フリードル先生とテレジンの子どもたち」アウシュビッツへの中継地テレジン収容所にいた1万5000人の子どもたち—奇跡的に生き残った人びとの証言が描き出す現代史の深き闇と光!